磐田市ラグビーフットボール協会

加　盟　人　数　125名
代表者名（会長）　鈴木　亨司
設　　立　　年　平成10年

【組織】

1　協会の概要

設立当初の本協会は、ヤマハ発動機ラグビー部（前年国体準優勝・関西Aリーグ４位）を中心に数チームでの活動であった。平成15年よりトップリーグが始まり、ヤマハ発動機ジュビロは「スポーツのまち磐田」の象徴の一つとして、活躍が期待されているところである。

平成16年より市内小中学校の校庭の芝生化事業が始まり、東部小学校を中心にタグラグビーが導入された。同年、全国小学生タグラグビー選手権大会で準優勝の快挙をあげ、その後も、県・東海大会を制覇し全国大会に出場している。また、平成23年度から実施される小学校体育指導要領の解説書にタグラグビーが明記されたことから、各小学校においてその取組が大いに注目されている。

そこで、小学校におけるタグラグビーの普及を図りながら、スポーツのまちづくりの一端を担い、生涯スポーツの架け橋となることやラグビーフットボールの健全な発展を協会の目的として、新たな歩みをスタートさせたところである。ヤマハ発動機ジュビロの活躍を筆頭に、中･高校･ラグビースクール等と底辺の活性化、タグラグビーの普及活動を通してラグビー人口の拡大を願っている。

2　協会の変遷

平成10年　磐田ラグビーフットボール協会設立
　磐田市体育協会・静岡県ラグビーフットボール協会に加盟
　浜松ラグビー協会と連携し、県西部地域でのラグビー普及（主として社会人ラグビー大会主要試合開催運営）をサポート
平成14年　ヤマハラグビースクール開校（県西部地域小中学校ラグビー普及に寄与）
平成18年　ジュビロカップ第１回タグラグビー大会を開催
　タグラグビー指導者講習会開催
平成19年　磐田市ラグビーフットボール協会に名称変更　規約改正
　タグラグビー教室を開催
平成20年　個人会員の募集を開始
　タグラグビー初心者用指導ＤＶＤ作成（全国小学校タグラグビー授業導入計画の先鞭となる）
平成21年　設立10周年

3　役員の変遷

	〈会長〉	〈理事長〉
平成10年度～	鷹取英史	山岸　至
平成13年度～	鷹取英史	登　剛志
平成14年度～	鷹取英史	山本純生
平成19年度～	鈴木亨司	松下　悟

【現在の活動状況】

1　競技の魅力

ラグビーは、楕円級を使うコンタクトゲームで、他の球技と違いパスを前に送ることができないのが大きな特徴になっている。近年、タグラグビーが注目され始め、新学習指導要領の解説書にも紹介され、学校体育の中にも広がりを見せている。ラグビー精神「ワンフォアオール・オールフォアワン」は、社会に必要な協力性や個を大切にする姿勢の育成に大きく役立つ物だと考えられる。

2　活動状況

⑴小中学校ラグビー普及活動

磐田市には、トップリーグ加盟チームであるヤマハ発動機ジュビロ、磐田市を拠点として活動している磐田クラブとヤマハ発動機ラグビースクールの３団体がある。毎年、ヤマハ発動機ジュビロホームゲーム開催時には、試合運営サポートをしている。また、磐田市内小中学校を中心にラグビー体験教室やいわたスポレクフェスティバルやジュビロ磐田メモリアルマラソンなどに参加し、ラグビー普及に努めている。

⑵タグラグビー教室

平成19年度より、大人を対象としたタグラグビー教室を開催した。小中学校やスポーツ少年団、子供会行事などで、子どもたちにタグラグビーを教えることのできる指導者を増やすために、まずは大人が体験してもらおうという目的で始めたものである。

平成19年、20年の２年間で12回、延べ379人の参加があった。平成21年度も５回の教室を計画している。過去２年間は体育館での実施であったが、今回は芝生のグラウンドで多くの人数でも対応できるようにしている。

⑶タグラグビー講習会講師派遣

タグラグビー教室に参加してタグラグビーに興味をもってくれた指導者の団体からの要請で、講師を派遣した。平成19年度は２回だったものが、平成20年度は15回に跳ね上がった。それだけタグラグビーに対する関心が高まったからであろう。講習会参加者も、幼稚園児から一般まで、幅広い年代に渡った。

⑷タグラグビー大会

平成18年度に、「ジュビロカップ第１回タグラグビー大会」をヤマハ発動機人工芝グラウンドで開催した。小学生の部38チーム、中学生の部18チームが参加し、熱戦を繰り広げた。

平成19年度の第２回大会は、第１日目の予選を磐田スポーツ交流の里ゆめりあで、第２日目の決勝をヤマハ発動機人工芝グラウンド、ヤマハスタジアム（磐田）で行った。小学生の部32チーム、中学生の部18チームを集めて、白熱した試合を繰り広げた。

平成20年度の第３回大会からは、一般の部が新設され、一般・中学生の部は男女別のカテゴリーとなった。

１日目の一般男子の部には10チーム、一般女子の部には３チーム、中学男子の部には16チーム、中学女子の部には５チームが参加した。

２日目の小学生の部には、39チームが参加をした。当日はインフルエンザの流行で参加できないチームも出てしまったが、遠く岐阜県や神奈川県からも参加があり、タグラグビーの広がりを感じた。

磐田スポレクフェスティバル
園児からお年寄りまで楽しんでくれました。
（H21．10．25）

⑸タグラグビー審判講習会

大会を運営していくに当たっての大きな課題が審判の育成である。第１回、２回大会では、県協会に依頼して審判を派遣してもらっていたが、第３回大会からは協会内で審判を行うことができるようになった。これも、平成20年度から行ってきた審判講習会の成果であろう。平成20年は３回の講習会を行った。平成21年度も５回の講習会を予定している。

【今後の展望】

2019年、ワールドカップが日本で開催されることになった。現在タグラグビーを体験している小学校高学年から中学校の子どもたちがまさに対象となる。このことから、スポーツのまち磐田から、日本代表選手が出ることを願い学校体育でのタグラグビーの普及により一層力を入れたい。また、子どもたちの発達段階を踏まえ、タグラグビーからラグビーへのスムースな移行を図りラグビー人口の増加を図りたい。

ジュビロカップ　第３回大会　小学生の部
（H21．１．25）